

らじみサラダボール子育て情報



「幼児の優しさ」
令和4年7月6日号
板橋富士見幼稚園



「どうぞ」が育てる思いやり

子どもに「パパに『どうぞ』して」とお手紙を手渡したり、リビングなどで横になったパパに枕を持っていってもらったりするのは、何気ない生活の一場面です。

ですが、このようなお母さんからお父さんへの「橋渡し」は、幼児が成長していく上でとても重要な意味を持ちます。

橋渡しの後に「〇〇ちゃん、ありがとう」という言葉を掛けられると、子どもは絆を感じ、家族から自分が愛されている、大切にされている ということを実感します。そして、「お手伝いできた」という喜びや、「人の役に立つことをした」という自己肯定感を覚えるのです。

このように子どもの心が満たされると心がおだやかになり、親の言動も素直に受け入れられるようになって、生活がスムーズになります。親が子育てでカリカリしたり、イライラした時こそ、「パパに持っていってくれるかしら」「きっと喜ぶと思うのだけど・・・」と、何か持たせてみてください。相手からの「ありがとう」や「偉いね」などの一言で、幼児の心は、大きく変わるものなのです。

お片付けを嫌がるお子さんなどは、一緒に片付けながら、1個片付けられたら、にっこり笑顔で「ありがとう」「偉いね、お片付けできたね」と褒めてみてください。意外と次の時に自分から率先してやりはじめるものです。

場に応じた一瞬の一言で、子どもは従順に素直な気持ちになり、人を思いやる心が芽生え、人の役に立ちたい気持ちが育つものです。



人を思いやる優しさを、誰しもが持って生まれてきます。
是非、やってみてはいかがでしょうか。

【写真】6月の「親子ふれあいデー」では一緒に製作遊びを楽しみました